

第4回日本産業看護学会 学術集会 特別集会の報告

産業看護学体系化検討委員会では、産業看護領域における看護診断の開発を進めております。

第4回日本産業看護学会 特別集会（「メンタルヘルス対策に関する看護診断を考える」）に産業看護職にお集まりいただき、産業看護診断開発の経緯とその内容を報告させて頂き、さらにメンタルヘルスに関連した看護診断の一連の流れを体験頂き、実践に即した貴重な意見交換を行うことができました。

学会員に広く、その内容をお伝えし、関心をより高めて頂くことと、より多くのご意見をお寄せいただきたく、特別集会の様子を報告させていただきます。

なお、特別集会にご参加賜りました方々に深く感謝いたします。

I. 特別集会「メンタルヘルス対策に関する看護診断を考える」の概要

日時：2015年11月15日（日） 11:30～13:20

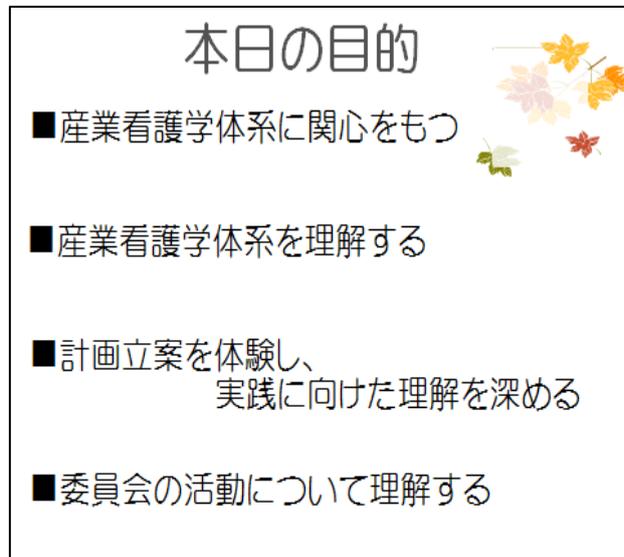
場所：島根県立大学 第6会場（3号館2階217講義室）

主催：産業看護学体系化検討委員会

参加者数：49名

【プログラム】

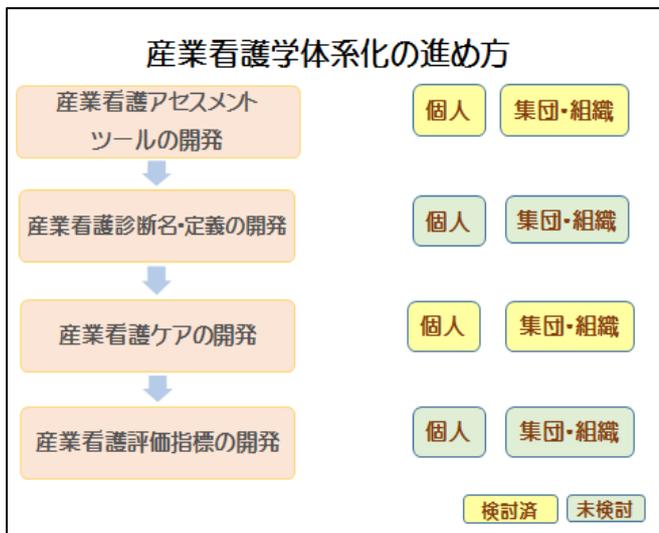
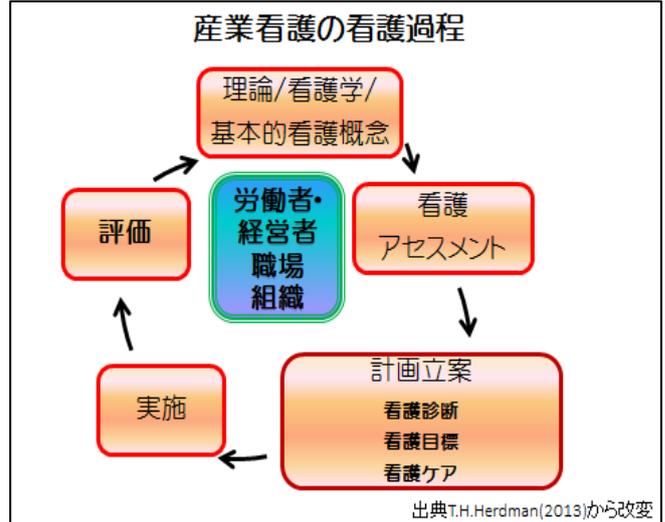
1. 学会理事長 河野先生挨拶
 - ▶参加のお礼、本学会の目的達成に看護診断体系化が必須。特別集会が診断体系構築に貢献等。
2. 伊藤委員長 産業看護体系化への活動と診断体系の紹介（下記PPT参照）
 - ▶特別集会の目的、当会活動報告
 - ▶産業看護の看護過程
 - ▶産業看護アセスメントツール紹介
 - ▶産業看護ケアリスト開発の紹介
3. 産業看護診断を体験する
 - ▶個人ワーク：慢性高ストレス状態の職場を想定し、診断指標をリストから選択、追加案を作成
 - ▶Grワーク：個人ワーク結果・所感の共有と集約
4. 参加者へのアンケート



産業看護学体系化検討委員会の活動

活動目的
産業看護の実践を支え、産業看護学の発展のために、産業看護の専門性の確立が望まれるが、その柱となる産業看護学領域の看護診断体系の確立を目指す。

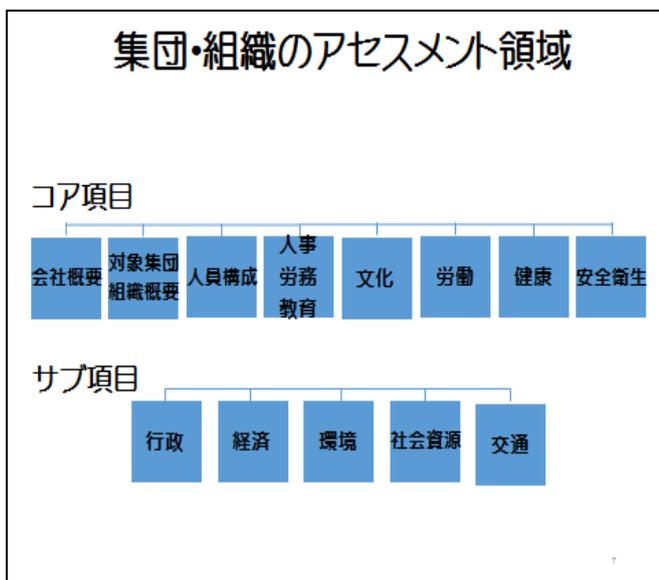
活動内容
産業看護学会設立(2012年)と同時に、産業看護学領域の研究者と実践者で委員を構成し委員会が設置された。
2013年～2014年:集団・組織を対象とした産業看護職による看護ケアを作成した。(約370)
2015年～集団・組織を対象とした看護診断(看護診断名、定義、関連因子、危険因子、看護目標、看護ケア)の作成途中



個人のアセスメント領域

領域	領域名	領域	領域名
1	ヘルスプロモーション	8	セクシヤリティ
2	栄養	9	コーピング/ストレス耐性
3	排泄	10	生活原理
4	活動/休息	11	安全/防衛
5	知覚/認知	12	安楽
6	自己知覚	13	成長/発達
7	役割関係		

すぐに役立つ産業看護アセスメントツールを参照下さい。



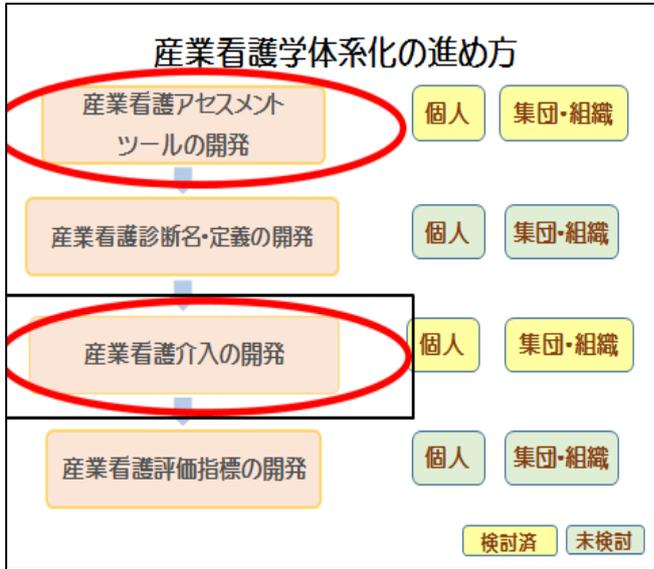
集団・組織のアセスメント領域

コア領域		サブ領域
1	会社概要 経営理念,CSR,業績等	1 行政
2	対象集団組織概要 雇用形態,事業計画,組織,業績	2 経済
3	人員構成 性別・年齢,職種,職位等	3 環境
4	人事・労務・教育 就業規則,給与,育児・介護支援,人材活用等	4 社会資源
5	文化 労働組合,福利厚生等	5 交通
6	労働 就業措置,作業条件等	
7	健康 健康診断/調査統計等	
8	安全衛生 安全衛生規則等	すぐに役立つ産業看護アセスメントツールを参照下さい。

産業看護ケアの開発

- ▶個人向け:88の看護ケア
例)職場環境調整,危機介入,主治医との連携,受療行動モニタリング,受診勧奨,休息指導,健康相談:情報提供,健康目標設定支援等
- ▶集団・組織向け:369の看護ケア(現在)
例)看護ケアリストを参照ください

今後 → 研修やインタビューなどから、看護ケアの妥当性、信頼性、使いやすさなどの検討を進める予定

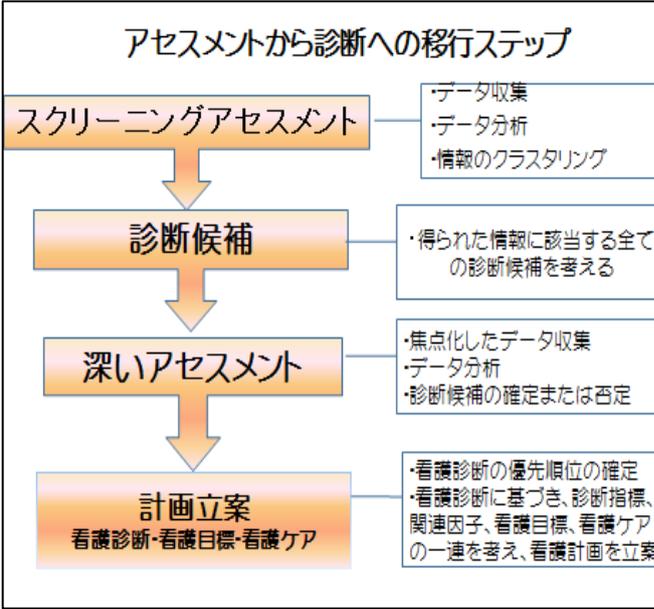


産業看護学体系化の開発

- ▶産業看護学診断体系の開発における基本的な枠組みや概念理解及び整理に関しては、**NANDA-I**を参考
- ▶看護ケアの開発は主に**NIC**を参考
- ▶看護診断の開発は、主に**NANDA-I**を参考に、**産業看護職の実践経験を基盤**としている

また、**産業保健・看護の動向**に加え、**産業界や一般社会の状況**で、**労働者(集団)や組織の健康に影響していることを包含しながら、俯瞰した視点**も持ち、開発を進めている。

NANDA-Iとは:NANDA(北米看護診断協会)-International
NICとは: Nursing Interventions Classification



産業看護学診断体系の【計画立案】

- 看護診断
 - 構成
 - 診断名と定義
 - 診断指標:診断名を説明する集団・組織の状態・反応・特徴
 - 関連因子:看護診断と関係性のある原因/寄与因子で、「～よる」「～に伴う」と表現される
 - 危険因子:リスク型看護診断の場合にのみ使用
 - 看護診断のタイプ
 - 問題焦点型・リスク型・ヘルスプロモーション型
- 看護目標:看護ケアに対する期待する反応
- 看護ケア:看護職による活動

3タイプの看護診断

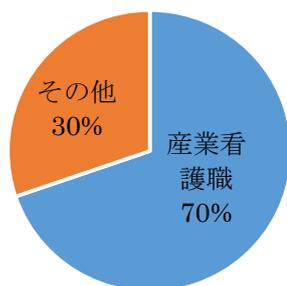
メンタルヘルスに関連した看護診断の場合

- ①**問題焦点型**看護診断
例:「慢性高ストレス状態」「急性高ストレス状態」など
- ②**リスク型**看護診断
例:「高ストレス状態の可能性」など
- ③**ヘルスプロモーション型**看護診断
例:「至適ストレス状態」など

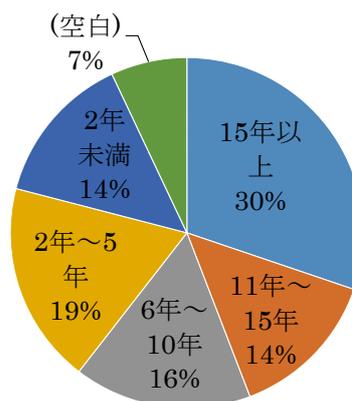
【参考文献】 すぐに役立つ産業看護アセスメントツール 監修 河野啓子 法研
*お求めはさんごの会事務局 (k-kono@xpost.plala.or.jp) までご連絡ください。

アンケート結果（回収率 87.8%）

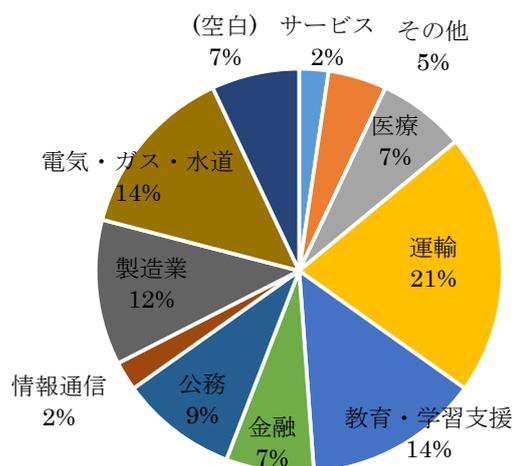
1. 職種



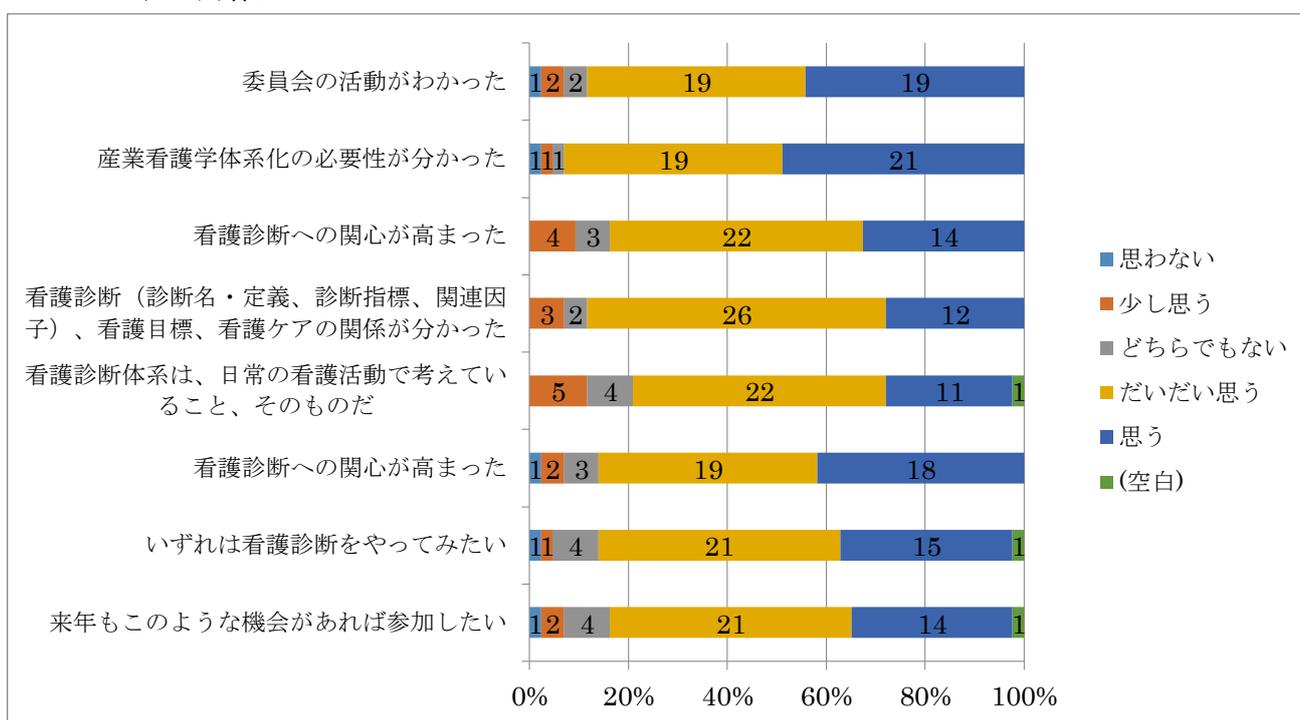
2. 経験年数



3. 組織（会社）の業種



4. プログラム内容について



5. 感想・意見から抜粋（読みやすいように修正済み）

- ・ 看護診断の大切さが改めて理解できた。
- ・ 多大な尽力をしてくださっている方々がいらっしゃることをはじめて知りました。
- ・ 学問体系が必要と思いますが、それを作り上げる作業がこのように行われていることが発見でした。
- ・ “ことば”の使い方は難しいとあらためて思いました。
- ・ 「産業看護診断」には、組織診断的な感じが多い。
- ・ 「看護診断」とはいうことを学習し、その根拠をもつことの必要性が納得できた。
- ・ 職場や経営者らとの共有が必要だと感じた。
- ・ 現場から出た所感をどんどん反映させてほしいと思います。
- ・ 資料が細かくて活用したい。

他、委員会に向けて励ましのお言葉や、特別集会での事例提示の方法などについてのご意見を頂きました。

本委員会では、特別集会で得た貴重なご意見を、診断化に踏襲させて活動して参ります。また、多くの職場で活用して頂くことを念頭におき、広い視野もち、柔軟な委員会運営に努めます。以後、委員会活動は、時差はありますが、本学会ホームページで学会員にオープンにしながら、広く皆さま方の賛同を、前向きな批判のご意見を頂きながら進めていきたいと思っております。

以上

2016年2月

日本産業看護学会 産業看護学体系化検討委員会
委員長 伊藤美千代